



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Environment Behavior Design for Improving the Urban Street Space in Vietnam Metropolitan Area with Rapid Urbanization [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	Do, Thinh Duy
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(工学)
Dissertation Number	甲第13795号
Issue Date	2019-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/75855
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Do_Thinh_Duy_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士 (工学) 氏名 Do Thinh Duy

審査担当者 主 査 教 授 森 傑
 副 査 教 授 小澤 丈夫
 副 査 准教授 小篠 隆生

学位論文題名

Environment Behavior Design for Improving the Urban Street Space in Vietnam Metropolitan Area with Rapid Urbanization

(急速な都市化が進むベトナム都市圏における街路空間の改善に関する環境行動デザイン研究)

ベトナムの都心部では、農村部からの人口流入が後を絶たず、人口密度の上昇とともに、オープンスペースや屋外公共空間の不足が問題となっている。特に街路空間は、これまで社会的にも文化的にも市民の様々な生活と交流の場として機能してきたが、自動車やモーターサイクルの交通増により、その安全性や快適性が著しく低下しつつある。

そのような中、近年、舗装や幅員の拡大、植栽やベンチの設置などの街路空間の再整備が進んでいる。整備された街路空間は、歩行者にとって確かに歩きやすくなったものの、主に衛生面を重視したデザインは画一的である。また、市政府は屋外公共空間の利用促進を目指しているが、街路空間での商業活動を制限する規制も行っている。一方、未だ整備されていない従来の街路空間には市民のいきいきとした活動があり、特色のある生活文化を見ることができる。

本研究は、ベトナムのダナン市における街路空間の現状について、物理的な環境と利用者の行動との関係を把握し、今日の街路空間の環境特性が利用者の認識や行動、関心にどのような影響を与えるかについて分析することで、移動にとって合理的でありながらも、バイタリティに富む街路空間の新たなデザインを探求することを目的としている。

第1章では、街路空間の今日的課題を整理し、歴史や現在の状況を踏まえながら利用者の行動を左右する環境のあり方を概観したうえで、研究の目的を論述している。

第2章では、街路空間に関する海外及びベトナムの既往文献を概括し、街路空間の整備に資する環境行動デザインとその研究について考察している。

第3章では、ベトナムの主な都市部における街路空間の基本的な特徴と整備実態について、歴史的な経緯や役割などを含めて整理している。その上で、ダナン市の街路空間の管理状況や利用状況を明らかにしている。

第4章では、研究方法を示している。街路空間の物理的な特徴を明らかにし、利用者の行動を把握した上で、それらの行動との関係性を分析するため、アンケート調査、キャプション評価法、観察調査、行動マッピング調査といった量的調査と質的調査との折衷的な方法論の有用性を説明している。

第5章では、利用者の意識からみた街路空間の物理的環境の特徴を明らかにしている。88の物理的環境要素が抽出され、このうち利用者の関心の強い13の要素について、将来の街路整備において、優先的に検討すべき項目であることを指摘している。

第6章では、未整備街路における利用者の行動に着目し、その街路空間が利用者を与える影響を明らかにしている。環境-行動関係を3種類のパターンに分類し、それぞれの特性を解説している。

第7章では、整備街路と未整備街路について、行動、意識、街路空間と周りの状況を含む環境と行動の関係性について比較分析を行っている。利用者行動の視点からは、街路空間の整備に際して、8つの物理的特性を考慮する必要性を指摘している。整備街路と未整備街路に共通して、街路空間に接するショップハウスとの関係、街路樹や植栽への近接性、及び、歩道のアクセシビリティが挙げられる。整備街路においては、特に余暇設備や歩道、露店の分布のあり方が重要である。未整備街路では、開放度や連結度、整然性への留意を指摘している。また、低所得層は高所得層と比較して街路空間をより利用しているが、整備街路ではその傾向が低下するとしている。

第8章では、各章の分析を踏まえ、街路空間の計画指針について論じている。街路空間のデザインや計画、管理と政策策定において考慮すべき要点を述べ、ベトナムのような発展途上国の都市部における公共空間の充実へ向けての適切で実現可能な解決策を提言している。さらに、ベトナムの街路空間の整備とその過程において、現在、利用者の参加の機会が欠如しているが、利用者の意識と需要を満たすことは、規制順守やデザイン、改善計画を推進するための重要な推進力となる点を強調している。加えて、街路空間の計画及びデザインのガイドライン案を示し、マネジメントや啓発及び情報発信の改善について具体的な提案も行っている。

これを要するに、本論文は、ベトナムの人々の日常生活に密接に関わるパブリックスペースである街路空間の実態についての実証的な分析とそこで明らかとなった課題の具体的な解決へ向けての学術的・制度的な方策について新たな知見を得るものであり、建築計画学さらには人間と物理的環境の相互関係に注目し生活の質の改善を志向する環境行動学に対して学術的な開拓として貢献するところ大なるものがある。

よって著者は、北海道大学博士(工学)の学位を授与される資格あるものと認める。